

# ボーリング柱状図

調査名

ボーリングNO.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNO.

ボーリング名	No.4(0369A290)		調査位置			北緯	37° 04' 47.0000"		
発注機関	栃木県大田原土木事務所				調査期間	2008-08-29 ~ 2008-09-05		東経	139° 54' 04.0000"
調査業者名				主任技師	現場代理人	コ	ア	ボーリング責任者	
孔口標高	670.87 m	角度			地盤勾配	水平	鉛直	使用機種	
総掘進長	8.01 m							ハンマー 落下用具	
								ポンプ	

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m)	標準貫入試験					原位置試験 試験名および結果	試料採取 深度 試料番号	室内試験 採取方法	掘進月日	
											深度 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	0	10					20
670.37	0.50	0.50		転石混じり砂礫 (GS)	淡褐			上部0.1mまで有機質シルト主体 0.1 - 0.5m間は崩壊性の岩塊礫主体である 10 - 40mm程度の角礫混じりである シルトはやや有機質を呈す 礫は 5 - 150mm程度の角礫主体である 全体に粘土の混入が多くやや緩い			1.15	4	2	2	8	30				
670.07	0.30	0.80		礫混じりシルト (M-G)	暗褐						1.45									
				粘土混じり砂礫 (GS-C)	褐灰						2.15									
668.12	1.95	2.75		転石混じり砂礫 (GS)	褐灰			2.75 - 3.35m間は転石が連続する			2.45									
667.52	0.60	3.35		転石混じり砂礫 (GS)	褐灰			5 - 40mm程度の角礫混じり土砂状を呈す 若干の粘土分が混じる			3.35	50			50	10	>50			09/01
666.87	0.65	4.00		粘土混じり砂礫 (GS-C)	褐灰						3.45	50			50	10	>50			
666.47	0.40	4.40		風化溶結凝灰岩 (Wt)	茶褐			風化著しくコアは破碎し細礫 - 一部岩片状を呈す 岩級区分はCLクラスに相当する			4.00	50	2		50	2	>50			
				溶結凝灰岩 (Wt)	淡青灰			亀裂間隔は10cm前後でコアは短柱状 - 岩片状を呈すが円柱状で採取される 亀裂面沿いの汚染はみられるものの比較的密着している 4.75 - 5.0mの斜め亀裂沿いに粘土鉱物を挟む			4.02	50	1		50	1	>50			
				溶結凝灰岩 (Wt)	淡青灰			5.1 - 5.2m間の斜め亀裂は幅3cmで軟弱化している 岩片は堅硬である 岩級区分はCMクラスに相当する			5.00	50	1		50	1	>50			
				溶結凝灰岩 (Wt)	淡青灰						5.01	50	1		50	1	>50			
				溶結凝灰岩 (Wt)	淡青灰						6.00	50	1		50	1	>50			
				溶結凝灰岩 (Wt)	淡青灰						6.01	50	1		50	1	>50			
				溶結凝灰岩 (Wt)	淡青灰						7.00	50	1		50	1	>50			
				溶結凝灰岩 (Wt)	淡青灰						7.01	50	1		50	1	>50			
				溶結凝灰岩 (Wt)	淡青灰						8.00	50	1		50	1	>50			
				溶結凝灰岩 (Wt)	淡青灰						8.01	50	1		50	1	>50			